

一齒
範圍内に於て、自然が有する、幾百萬の勢力と複雑とを盡く
説明せん事は甚だ難し。技術家(又美術家)は凡ての物の習俗
的の標準に依り、其の直接の目的たる事物を示すに在り故
に現實の結果を收ぜんと欲せば、技術家の爲す處は實際人
生の活動より、やゝ異ならざるを得ず。劇壇の描寫する處は、
實在の人生には非ず、模擬の結果は客觀すれば、間接に見ゆ
る手段に依りて得らるゝものなり。牛の眼を射んとして、彈
隙高度を顧みず、之を直射するは、之れ新兵のなす處なり。
雄辯は俳優術に於て重要なものなるが、俳優の個人的思
想は何等の必要なきか、俳優は其顔付態度、身振等に顧慮せ
ずして、たゞ己れに與へられたる、臺詞を語るを以て能事足
れりとなすか、人が見て首肯する所以は、其の身振、發音、感情

の調和に依れる力なり。ガリツクは、其時代の最も大なる自
然派の俳優なり。然かも彼は臺詞に於ては、當時後輩の俳
優の及ばざるものありき。蓋し彼が力めて舊派の誤れる方
法を排斥して、技術家として、命名を得たるは、此にあり。ガリ
ツクは人物に扮したり、換言せば、俳優の技を演ぜり。キーン
も亦しかせり。一は思想を移すに、人間の力の優美と熟練と
を兼備したり。他は觀客の肝膽を寒からしめたる、焔々とし
て燃へ出づる、驚くべき大精神を有せり。共に此の二人の秘
術とせし處は、最もよく詩人を理解し、其詩人の描きし人物
を最も能く演じ、其の發揮せし熱情を最も能く顯はせしに
あり。
公衆の心念に、實在的理想を保留し置き、之を發達せしめん

には劇動を畫工の所謂空色の中に置かざるべからず。凡て其の時代と其場所とを示す物、譬へば衣服、光景の如きは、皆これに屬するものなり。若し之れなくんば、觀客の心を迷はすが如き事あるべし。これ劇術が背景と衣装、其他道具立ての必要なる所以なり。俳優が周囲の附屬物と相應じて、己が役を演ぜざるを得ざるは、觀客がかゝる事柄に對し、趣味と智識とを有すればなり。相當といふ事は、萬事に必要なるものなり。例せば、宮殿に相當する事物は、之を茅屋に用うる能はざるが如し。暴風の中にリヤール王が茅屋に坐するは、毫も不相當にはあらず。何となれば、此時は極めて非常の場合にして、決して普通の場合と同一視する能はざればなり。若しリヤール王が王冠を戴きて、劈頭第一にかゝる茅屋に居たり

とせば、王が其茅屋にあるべき原因にして、説明せられずんば、其人物が然らざれば、興行主は、狂人と見做されん。されば此相當なる語は、常に能く注意し置かざるべからず。これ舞臺の裝飾に關し、最も留心注意すべき處なりとす。俳優術を論じて最後に至り、此に忘るべからざる一點は、俳優術の最終の目的は、美にあり。唯た事實は、之れ美の一分子に過ぎず。賤劣、陋醜、卑穢なる事物を、單に作出するは、技術の恥辱なり。暴戾にして希望なき、不満足は、眞の國民的生活の一部にあらず。須らく希望に満ち、熱誠あれ、願くは勇武なれ。一國民が娛樂の爲めに悲觀的思想を求むるに至り、或は之を許すが如きは、惡兆と云はざるを得ず。悲觀主義は、之れ美と正反對のものなればなり。人生は、其苦痛煩悶を有するに

拘はらず、美にして貴重なる天與の賜物なり俳優の藝術は
 此美なる事物を作出し、人生の運命を決すべき高德と波瀾
 極りなき熱情とに力を附するものなり。かくて長き經驗に
 依り得たる教訓や、罪惡に對する刑罰や勇敢、忍耐、犠牲に供
 ふ報酬より與へられたる教訓が劇壇に於て觀客に示さる
 るものなり。されば單に機械的ならずして、一の理想を有す
 る俳優は、彼れ一身の大望の範圍外に横はれる義務を有す
 るものなり。人として俳優の藝術を尊敬せしめんと欲せば、
 すべからく之を神聖になさざるべからず。俳優の藝術には
 僥倖の如きものあるなし。
 俳優と云はず、觀客と云はず、共に記憶せざる可からざるは
 高尚なる戯曲の目的は、單に人生の遊戯として論ず可から

ざるにあり。其の眼前の目的とする處は、趣味を興へ、快樂を
 與ふるにありと雖も、其深遠なる目的は、熱誠にあり、嚴正に
 あり、眞率なるにあり。

誤		正	
せり	始め五行と重復	五行と十七頁の	本文十六頁の終

俳優術及劇論(終)

明治四十年七月廿八日印刷
明治四十年八月四日發行

○俳優術及劇論與附（並製）

○定價金六拾錢

著者 松本君平
東京市本郷區西片町十番地

發行者 中嶋益吉
東京市京橋區銀座一丁目一番地

印刷者 河野二郎
東京市京橋區銀座二丁目一番地

印刷所 博文館印刷所
東京市小石川區久堅町百〇八番地

不許
複製

發行所

東京市京橋區銀座一丁目一番地

讀賣新聞日就社

中學 雜誌 臨時 增刊

●消夏最適の好讀物

六版出來

名士の中學時代

▲舶來紙菊判二百頁

◎名士の新舊寫眞入

現に成效せ
る名士の中
學時代は今
の青年の模
範とするべ
多し世の子
弟を愛する
必らず此書
を一讀せよ

勉強	法科大學教授	戸水
染物屋	東京市尾崎	行雄
若殿	二六新聞社元	興朝
難來	獨立評論家	定輔
獨學	文學士山路	彌吉
嵐	文學士樋口	秀雄
張本	文科大学教授	正治
平	高等工業學校長	精一
時勢の波	毎日新聞記者	三郎
惡黨の首領	飛騨院議員	松本君平

乞食學問	文學博士	村上	專精
回	小説家	小栗	風葉
年少の秀才	文學博士	黒板勝美	
煩惱の獵物	文學士	近角常規	
野心家	高師範學校教授	寺尾	亨
我が友	文學士	上田	敏
故	文學士	柳郁太郎	
落	文藝家	夏目金之助	
自然の懷	英詩人	野口米次郎	
偉大の感化	宗敎家	海老名正	

鐵拳制裁	文學博士	井上哲次郎
維新前の學生	小説家	渡邊國武
廿年前の小私	小説家	幸田露伴
文學者希望	文學士	吳秀三
圖書館通	新詩人	薄田泣菫
初期の留學生	醫學博士	菊池大麓
一月僅五錢	醫學博士	三島通良
當時の腕白者	法學士	笹川
		潔

定價 二十五錢
郵稅 一錢五厘

發行所 東京銀座 讀賣新聞社 振替口座 六壹貳

ムラサキ編輯局編 各名媛の新舊寫眞入

名媛の學生時代

定價 四十錢
郵稅 六錢

名媛才女の學生時代を研究するほど興味あり且有益なるはなし本書收
むる所現代の大家數十氏悉く今の世の少女の模範たるべし家庭に必ず
一本を備ふべきもの也

歌へ弾け	女子體育家 井口あぐり 袖が邪魔	國秀小説家 大塚楠緒子 一人位は交際界	侯爵 鍋島夫人
お百姓の相手	音樂家 幸田 延子 細腕家を支ふ	國秀小説家 野口 小蘋 味噌汁の用意	東京女學校長 柳橋 絢子
勉學人不知	子爵 加納 夫人 謎の塊	泰の宮御用掛 迎 照子 庖厨是城廓	陸軍少將 外松 夫人
精神で勝つ	國秀小説家 小川 幸子 縁にて稽古	牧師 海老名夫人 寺子屋仕込	故陸軍大將 兒玉 夫人
召使は恩人	跡見女學校長 跡見 花咲 自由主義	家庭の友主筆 羽仁もと子 平凡なる境遇	女子實業學校長 山脇 房子
粟の粥	金子 夫人 十六歳の師匠	故海軍大佐 佐伯 夫人 筒袖主義	ドクトル 加藤 夫人
得意は唱歌	宮崎 夫人 幸慘夢の如し	早稲田大學教授 安部 夫人 紅蘭莖の秀才	三輪田女學校長 三輪田眞佐子
順風帆を掲ぐ	海軍大將 杉浦 夫人 洋行の仕損ひ	學問院女學部長 下田 歌子 日本服新製	東京市長 尾崎 夫人
十五年二日の如し	大學校長 濱尾 夫人 お皿のお茶漬	牧師 鳩山 夫人 蝶よ花よ	國秀小説家 三宅 夫人
		小崎 夫人 髪は唐人髷	故衆議院議員 星 夫人

醫學士大森篤次先生校閱并序文 陸軍軍醫監醫學士森林太郎閣下校閱
陸軍一等主計岡崎内藏松君著述 陸軍糧秣廠長梶塚鈞太郎君序文

家庭 食養大全

附年中獻立及其調理法
附宴會の作法及其禁もつ

（最新版）

總クローズ洋裝
金文字入
定價金 壹圓
小包郵稅拾貳錢
郵券代用壹割増

東京 銀座 發行所
東京 銀座 東京 銀座 東京 銀座

醫學士大森篤次先生校閱并序文 陸軍軍醫監醫學士森林太郎閣下校閱
陸軍一等主計岡崎内藏松君著述 陸軍糧秣廠長梶塚鈞太郎君序文

口繪 是名譽の負傷者陸軍歩兵中尉櫻井忠温君左筆也

年中獻立及其調理法は 東京割烹女學校校長陸軍調理學校調理解法協托教師秋益實君及東京治癒會會長
順康して作成せられたるものにして一月元日の雑誌より初まり新年の重誦料理は勿論毎週の獻立表中には臨時來客用即席料理
の仕方に至る迄懇篤に教へあり

宴會作法及其禁もつは 外務大臣秘書官吉田要作君の嚴密なる校閱に成りしもの

營養通則 著者は陸軍調理學校に於て糧食の教授に専任せられ、兵食の改善に資せんとして糧食營養の著述ありて今又將校家庭に於て
なを此著の年々中學校に於て利用し、衛生の指導に資せんとして糧食營養の著述ありて今又將校家庭に於て
を此著の年々中學校に於て利用し、衛生の指導に資せんとして糧食營養の著述ありて今又將校家庭に於て

調理別法に於ては、勿論、冷やし物等の指へ方を詳述し、且食ひ合に對する中毒の豫防等に至る迄、注意事項は悉く詳記あり

武壹六 口貯振 部版出社聞新賣讀 銀京東 所行發

讀者新聞新賣讀
著 旻 秋 田 池

庭 家 新

行發版拾第々嘖評好

錢六稅郵 錢五卅價定

◎東京朝日新聞評

主婦の家

庭に於ける職務責任心得等を最も平易に最も丁寧且つ最も實際的に言文一致體を以て記述せる有益適切の参考書たるを失はず

◎中央新聞評

日本女子の地位

を高め將た女權を擴張せしめんとする著者の篤實老熟なる見地に出でたるものを見て著者の女子に對する用意の周到なるを見るべし

◎女學世界評

家庭の主權者たる女子を標目とし居家處世の事より、家政、交際、教育結婚其他百般の日用行事を巨細に論述説明したるもの論旨質實、文辭流暢、新進の女子たるもの宜しく熟讀すべき書也

發 行 所 東 京 銀 座 一 丁 目 一 番 地

社 就 日 聞 新 賣 讀

番貳壹六 座口金貯替振

科 學 應 用

競 馬 之 秋 訣

陸軍騎兵中佐
隈部末熊序

陸軍一等獸醫
伴仲藏著

最新發行 大勝利の寶典

△四六版 百三十頁圖入
△定價 金參拾五錢
△郵 稅 四錢

本書要目
馬種 ▲英國純血種 ▲英國半血種 ▲英國
獵馬 ▲英國種 ▲英國種 ▲英國種
國馬 ▲英國種 ▲英國種 ▲英國種
オト ▲英國種 ▲英國種 ▲英國種
國馬 ▲英國種 ▲英國種 ▲英國種
色 ▲英國種 ▲英國種 ▲英國種
時 ▲英國種 ▲英國種 ▲英國種
厩 ▲英國種 ▲英國種 ▲英國種
通 ▲英國種 ▲英國種 ▲英國種
競 ▲英國種 ▲英國種 ▲英國種
日 ▲英國種 ▲英國種 ▲英國種
け ▲英國種 ▲英國種 ▲英國種
し ▲英國種 ▲英國種 ▲英國種
節 ▲英國種 ▲英國種 ▲英國種
炎 ▲英國種 ▲英國種 ▲英國種

各地に競馬會の盛に行はる、様になつた事を喜ぶ。競馬は雄壯活潑なる國民的遊戯で、且は又馬匹改良の一手段である。而して競馬に優勝を占むる秘訣は最も優秀なる種類を選び最良の方法に依り飼育するにある。是等の事を最新の智識に依り細大もらさず。極めて平易に説いたものが本書です。

發行所

東京市京橋區銀座

讀賣新聞社出版部

(振替貯金口座六壹貳番)

外務大臣 吉田要作氏 閣 陸軍一 岡崎内藏松氏 著

袖珍 美本

和洋宴會の作法及其禁物

定額 郵券代用金 一割増
紙幣 拾五錢 入
紙幣 拾五錢 入

紳士淑女必讀の書が出來和洋の宴會に於作法及其禁物もつての凡一舉手一投足の微つて至るまで委しく解り易く手を取其の内容を見ると直ちに眞價が分る、次の目次を御覽なさい

紳士淑女必携

- ◎社交的會合の種類
- ◎室内及食卓の装飾
- ◎席次の定め方
- ◎退散の際の心得
- ◎夜會其他の集會の心得
- ◎日本料理に就いての心得
- ◎招待及其の回答状の心得
- ◎參集の場合の心得
- ◎開宴中の心得及其禁物
- ◎答禮の心得
- ◎喫煙の心得
- ◎各項何れも詳細に説明

本書は陸軍經理 岡崎氏が教授上參考の爲めに調査せられたるものなるも希望者多きに十數年來外務大臣秘書官として 儀式典禮の活字引とも稱せ 吉田氏の嚴密なる校閲を高めんとする諸君の最良ポケット用なり

發行所 東京市京橋區銀座 振替貯金口座六〇六五 讀賣新聞社

東京神經病院々長 醫學士田村化三郎著 (神經病ほど本人及家族の氣に附かぬ病氣はなくて而も最恐ろし)

神經の衛生

定價參拾錢 郵稅四錢

醫學的知識の缺乏は世に恐ろしきも 怒り易き人 悲しみ易き人 壓世家 不平家 記憶力根氣力に乏しき 神經病患者を加へたならば 根治が出來る 小兒の性質の悪い 神經病の爲 病氣と知らずに 無益な苦みをして居る人は 病氣の兆候と其治療法を御覽なさい 千金に代 男女學生を始め 苟くも 家庭の幸福を希望する者は一日も早

發行所

東京市京橋區銀座 振替貯金口座六〇六五

讀賣新聞社

81
1079

●明治四十年増補改版●

讀賣新聞 東京案内

價六十五錢
郵稅六錢
頁數約七百
寫真版滿載

▲四六年截洋裝美本▲市街新地圖入り(電車線詳細)▲東京博覽會案内圖入り

其特色

一切の方面に亘る詳細の記事を網羅すると同時に、而かも最も平易に最も簡約に一見して要領を得る様編纂し、文章は趣味あり、記事は親切なり、加ふるに代價は低廉に携帶に便

其眞價

利に、要するに最完備したる東京案内なり
續賣新聞社が多年の勞力を費し編纂したる物、昨年出版以來好評噴々、忽に賣切れたれば、最近の調査に據つて大訂正大増補を行ひ益々材料を精撰して本書を出版す近來之に倣へる

其内容

幾多の類書出づるも到底同日の談に非らず
官廳公衙神社佛閣名所古蹟公園遊覽地病院醫師辯護士執達吏銀行會社商店勸工場旅館料理店劇場寄席電車汽車汽船新聞社通信社力士藝人俳優藝者遊廓等の記事は勿論一々之が案内

其効用

と費用とを詳記したれば其効用旨の杖に優る
東京博覽會見物の爲め上京せんとする者の必携の書たるは勿論東京土著者も臺所道具に先

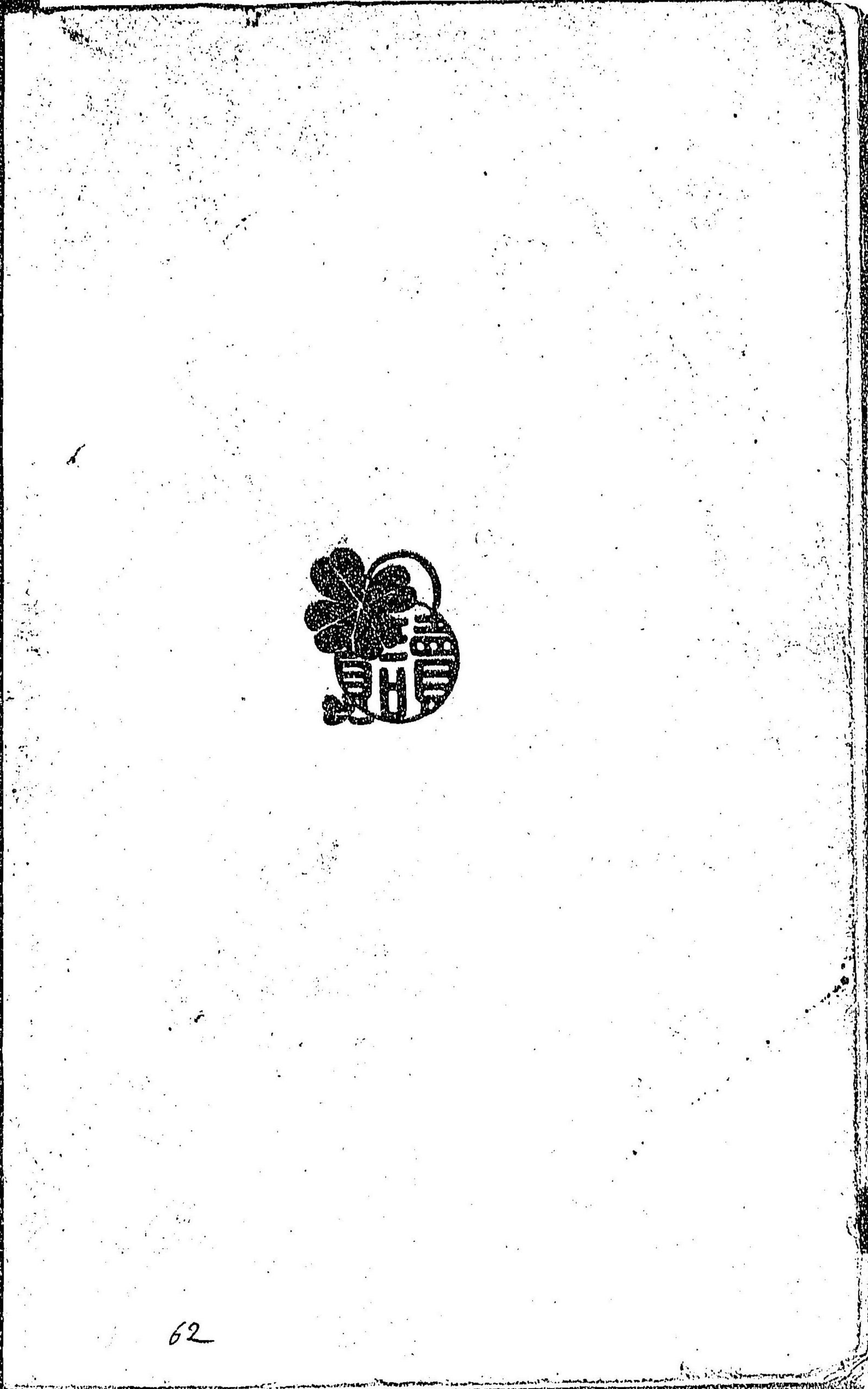
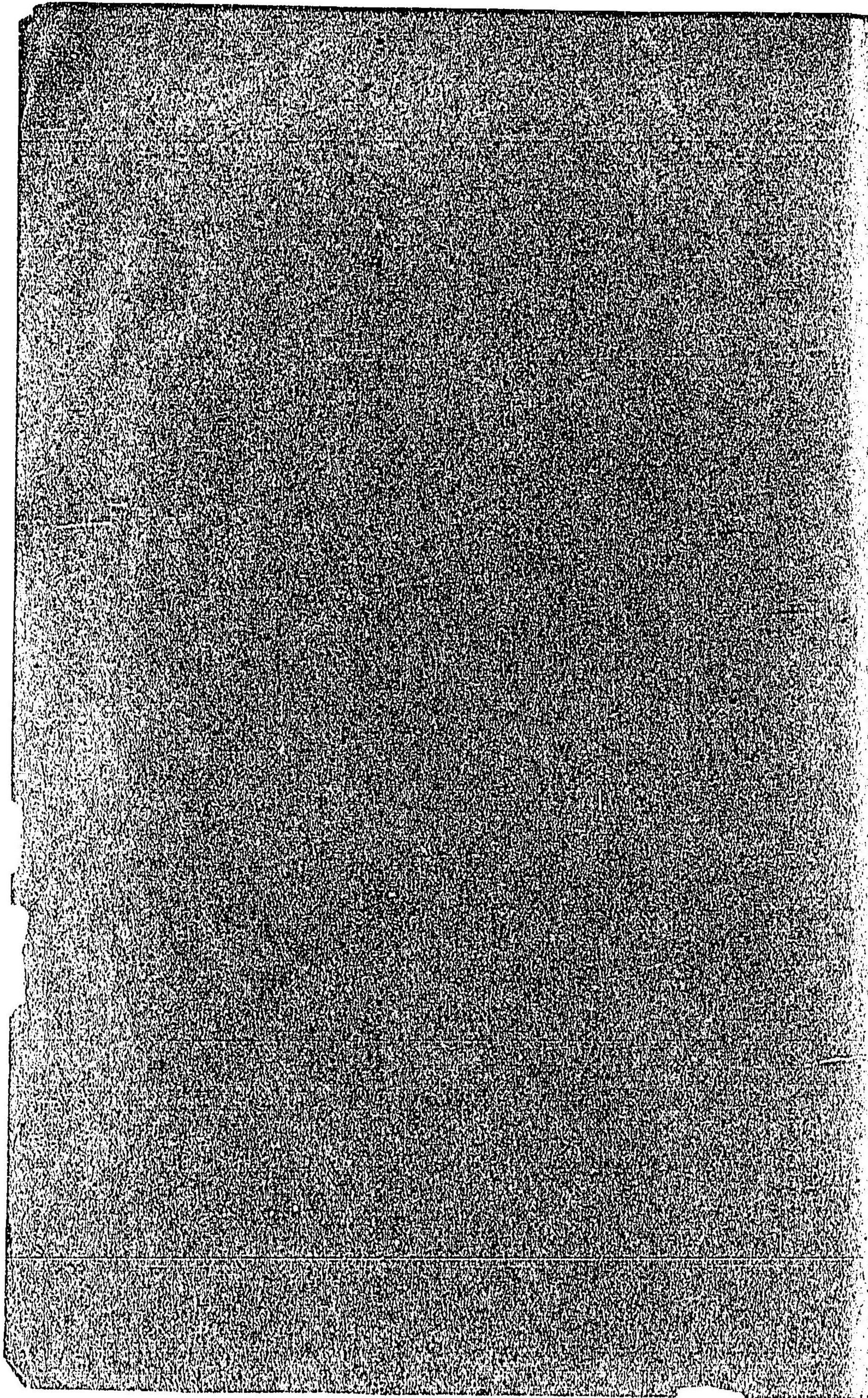
送金の便法振替貯金を利用せば無料にて送金せらるべし

發行所

東京銀座一丁目一番地

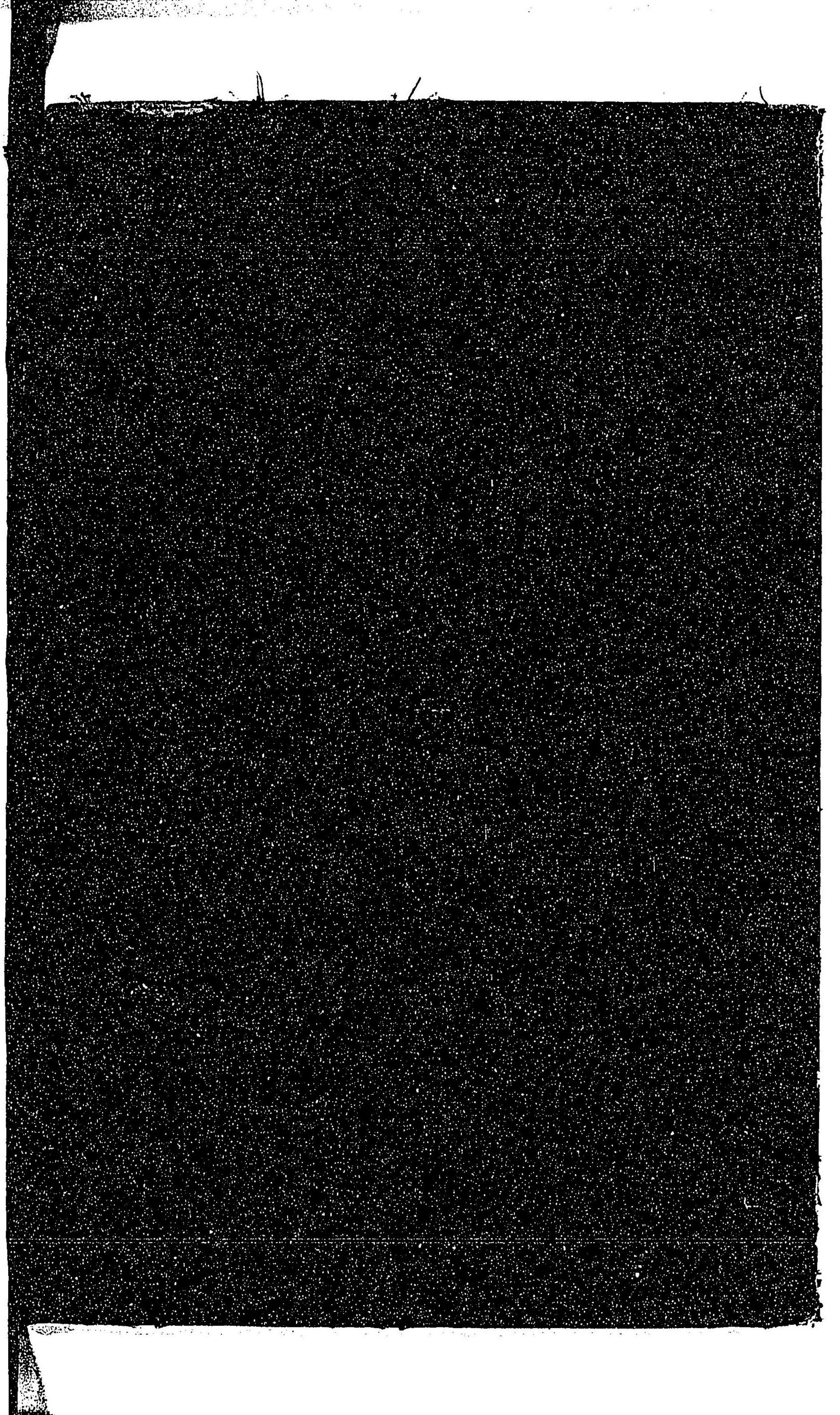
讀賣新聞日就社出版部

振替口座六壹貳番



62

87
1079



61
1977

074877-000-5

81-1079

俳優術及劇論

ヘンリー・アービング/述

M40

CEK-0290



